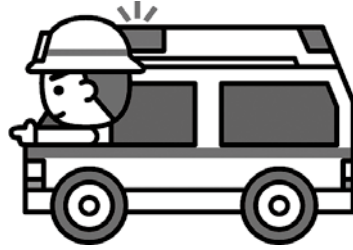


【答】 令和5年度中に新規養成した救命士は1名となっている。令和6年度採用試験において、国家試験合格者3名を採用しているため、昨年度から4名救命士が増加している。

また、救命士の目標として、運用救命士を30名とし、救急車4台に対して、全ての救急車に2名ずつ搭乗できるように養成している。



○生活保護事業

【問】 現在のケースワーカーの担当ケース数と本来義務づけられている家庭訪問の回数とその実態は。

【答】 ケースワーカー1人当たりの担当ケース数は、100から120人である。

また、訪問頻度は、施設入所者等が年1回、高齢者世帯が年2回、就労指導を継続している場合などは月1回など、ケースに応じて異なっている。なお、訪問の実態としては、おおむね3割程度となっている。

行田市基本構想審査特別委員会

令和6年9月20日に行田市基本構想審査特別委員会を開催し、2議案について審査を行いました。

○第6次行田市総合振興計画基本構想の廃止

○行田市基本構想の策定

【問】 策定される基本構想は4年間とのことだが、示された将来像はとも広い範囲を指していると感じられる。現在の公共施設マネジメント計画等との関連はどうなるのか。

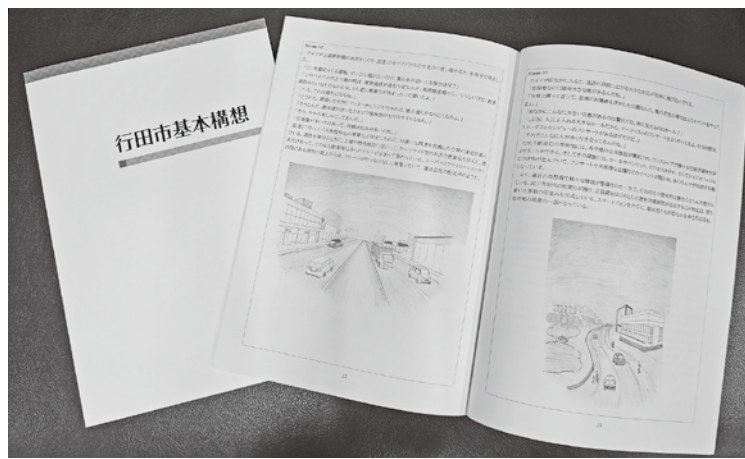
【答】 基本構想の期間は、具体的な年次目標を設定したものではなく、将来像としてその先を見据えた行田の理想を描いたものである。令和9年度からの次期基本構想においても現存の将来像を踏襲する部分が多いと認識しており、今後検討していく。

【問】 今まで、行田市は4つの高速道路等の中間に位置しており、各インターチェンジへのアクセスに有利であると考えられていたが、基本構想では企業の立地を考えたときに、物流や移動の面で決定的に不利であると考えられている。この認識が変わったのはなぜか。

【答】 本市は東京圏からも群馬県からもアクセスが良く、地の利は良いと

考えている。

しかし、高速道路のアクセスは他市と比べてハンディがあると認識したうえで、将来的に高速道路を誘致したいと考える。



【問】 ウェブアンケート調査の結果を見ると、年齢層が高い人の回答が多いと思われるが、若い人の声を拾う必要があるのではないか。

【答】 ウェブアンケートの場合、返信は50代以上の方が多い。このため、進修館高校やものづくり大学のほか、

青年部や働き盛りの層、保育園に預けている方等の意見聴取会を開催した。

【問】 基本構想の評価はどのように行うのか。

【答】 最終年度に検証し、次期の構想等に生かしていく予定である。

【問】 人口等のデータについて、従来掲載されていた人口の推計及び目標値の推計がなくなった理由は。

【答】 人口の目標設定は、対外的に分かりやすいメリットがある一方、人口増減は政策の実施から効果の発現まで一定の時間がかかることに加え、市の施策以外の多くの要因に影響を受ける。

このため、4年間という計画期間内で施策と連動した実効的な目標を設定することは難しいと判断した。

委員長	小林 修
副委員長	田中 和美
委員	福島 ともお
委員	梁瀬 里司
委員	新 諒平
委員	養田 英雄
委員	斉藤 博美